

都市計画マスタープランに位置づけのある 区別構想の更新について

日 時 令和 2 年 11 月 27 日 (金)
午後 3 時から
会 場 西区役所健康センター棟
大会議室

- 1 更新素案について (報告)
 - (1) 第 1 部会 (11 月 6 日) 等の状況報告
 - (2) 修正素案の説明

- 2 その他

【配布資料】

- ② 次第
- ② 資料 9-1 第 1 部会 (10 月 6 日) の主な意見
- ③ 資料 9-2 西区議員団勉強会 (10 月 15 日 他) の主な意見
- ④ 資料 9-3 第 1 部会 (11 月 6 日) の主な意見
- ⑤ 資料 9-4 修正素案
- ⑥ 資料 9-5 今後のスケジュール (案)
- ⑦ 参考資料 前回素案

自治協議会第1部会(10月6日)の主な意見

No.	主な意見(第1部会)	主な回答(西区)
1	来春、新潟中央環状道路の国道8号方面から国道116号までの区間が開通予定であり、茶豆ふれあいラインから緒立や亀貝まで一直線にアクセス可能になる。また、黒鳥バイパスの整備計画もある。この動線は縦方向の幹線道路として重要な役割を持つと考えるため、構造図に落とし込んでほしい。	確認します。
2	新潟中央環状道路の概要について教えてほしい。	北区の東港付近から江南区、南区、西区を通過し、西蒲区の角田山付近へ至る環状道路の構想です。現在西区では、令和4年度を目標に国道8号から国道116号までの区間を優先に整備を進めています。
3	「バス事業者と連携し、公共交通の利便性向上を図る」とは具体的に何か？	例えばBRTや区バス・住民バスに関する計画や取り組みが挙げられます。前はJRのみの記載でしたが、今後はバスについても推進していきたいという趣旨で追記しました。
4	先日、内野まちづくりセンターで洋上風力発電に関する説明会が開催された。西区の海岸沿いを中心に海岸から約1km離れた位置に洋上風力発電を計画しているようだが、これに対して市はどういう考えか？	洋上風力発電については事業者が計画・整備するものです。現在は、事業者が地域の皆様へ計画について説明している段階であり、市としては説明会の段取りなどをサポートしている状況です。
5	現在、四ツ郷屋にメガソーラーが稼働している。西区にクリーンエネルギーの拠点を位置付けてはどうか？	洋上風力発電や太陽光発電については環境分野の内容と思われそうですが、今回は都市計画分野の内容であるためテーマから逸れます。
6	佐潟などの豊かな自然環境をどのように活用していくかといった視点がないので、もっと地元PRのような取り組みを考えてほしい。	区別構想は、土地利用やまちづくりの方針といったハード面を定めるものであるためテーマから逸れます。

西区議員団勉強会(10月15日 他)の主な意見

No.	主な意見(西区議員団)	主な回答(西区)
1	新潟市は、根本的に人口減少の視点が重要。今後は既存のまちで人口を増やすにはどうすればいいかという具体的な視点をもってまちづくりをしていかないといけない。	ご意見として承りました。
2	全体構想が明確に示されていない段階で、区別構想を検討するのはいかがなものか？	本来の流れとしては、全体構想があってから区別構想を検討するべきと考えます。しかし、現在、全体構想が明確に示されていない段階で区別構想を検討するように本課より指示を受けている状況です。
3	P.2「②現状と課題」では、現状と課題をもっと整理しながら記載するべき。	現状と課題を整理した上で記載することを検討させていただきます。
4	P.3「(1)拠点性の向上」における「越後赤塚駅周辺を近隣拠点」については生活拠点との違いが分かりにくいので、生活拠点に統一するべき。 ※P.4「区づくりの構想図も同様	拠点の修正について検討させていただきます。
5	P.3「(1)拠点性の向上」の後段については、「区の持続的な発展に寄与する都市機能のあり方について検討していきます。」とした方がよいと考える。	表現の修正について検討させていただきます。
6	市街化調整区域では宅地開発などの構想があるものの、農業サイドの課題など様々な要素が足枷となっており実現困難な状況。この状況について記載するべきではないか？	市街化調整区域は市街化を抑制すべき区域であるため、農地などを保全していくことが基本的な考え方になると認識しています。記載については、他の区とも情報交換しながら検討させていただきます。
7	農業就業者は全国的に減少・高齢化しており、新潟市の米農家も同様な状況。一方、国は優良農地を維持する方向性である。このような中、多くの農村部は疲弊しており、重要な問題となっている。	
8	区ビジョン基本方針では「都市と農村が融合するまち」で農業に関する内容が多く含まれている。区別構想についてももう少し農業について記載が必要ではないか？例えば「産業」の欄など。	
9	P.3「(2)産業を活かしたまちづくり」の「多くの人やモノが行き交う」の表現については、亀貝付近は多くの住居が張り付いているため、「多くの人やモノが行き交い居住する」とした方がよいと考える。	表現の修正について検討させていただきます。
10	P.3「(5)水防対策」について、西区の地勢から浸水危険地域が平野に広がっている状況を踏まえ、農地の果たしている防災の役割の重要性についても視点に加えるべき。	視点の追記について検討させていただきます。

自治協議会第1部会(11月6日)の主な意見

No.	主な意見(第1部会)	主な回答(西区)
1	素案P.3「(1)拠点性の向上」の「黒埼地区の国道8号の周辺地域一帯」について、どの辺りを指すのか？	P.4の構想図にお示したとおり、主に国道8号の沿線や北陸自動車道の沿線を含んだ地域としています。
2	素案P.3「(1)拠点性の向上」の文末を「検討」と表現しているのはなぜか？	前回は「まちなかの有効利用を促進します。」と、まちなかに限定した表現に受け取られる可能性があったため、区の持続的な発展に寄与するものについては、まちなか以外に関しても含まれる表現となるよう修正しました。
3	人口減少により、地方のまちづくりの方向性は変わりつつあるのではないか？	全体構想が固まっていない中でまちづくりの方向性を明確に表現することは難しいですが、確かに人口が周辺地域へシフトする現象も考えられますので、基本は現在の市街地の規模を維持しつつ、市や区の持続的な発展に繋がるような質の高い開発については推進していけるよう表現いたしました。
4	市全体では人口減少が進行しても、まちなかのドーナツ化現象に伴い、周辺地域では人口が増加することも考えられる。地域ごとに人口推移を見据えてまちづくりを考えていくとよいのではないか？	なお、現在、国土交通省では近年の激甚化、頻発する水災害を受け、「水災害対策とまちづくりに関するガイドライン」を作成することとなりました。ガイドラインや全体構想の内容次第では、区別構想の内容が変更となる可能性がありますことを、予めご理解・ご了承願います。
5	素案P.3「(2)都市と農村が融合するまちづくり」とあるが、「融合するまちづくり」とはどのような方向性か？	西区区ビジョン基本方針から引用した表現になりますが、主に市街化調整区域が大半である農村部においても雇用機会や人口を維持していく方向性を記載した内容になります。
6	「融合」ではなく「共存」と表現した方がよい。	表現の仕方については検討させていただきます。

7 西区

① 区の概要

(1) 地勢

- 西区は、信濃川及び関屋分水路以西に位置し、坂井輪地区、西地区、黒埼地区で構成されています。北には日本海があり、川や潟などの水辺も多く存在しています。
- 北西部には海岸砂丘地帯があり、南東部は平野となっています。平野部は海拔が低く、水との関わりを繰り返してきました。この歴史の中で築いた豊かな穀倉地帯が、美しい風景を作り出しています。
- 区の面積は、94.09km² で市内全 8 区の中では 5 番目、新潟市の全面積（726.46km²）の約 13% を占めています。（面積：国土交通省国土地理院（R2））



(2) 自然

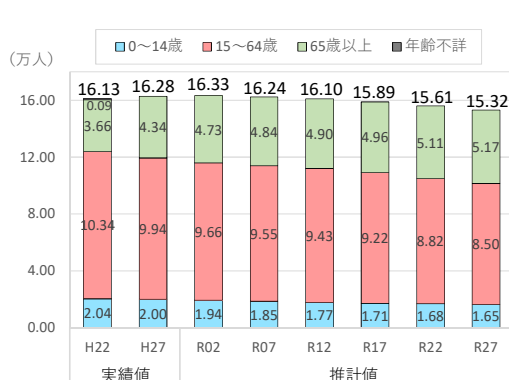
- 日本海に面して長い海岸線を持ち、青山海岸から四ツ郷屋浜まで延びる砂浜から見える夕日は、西区のシンボルとなっています。毎年この地で日本海夕日コンサートが開かれるなど、多くの人々が夕日に集い、にぎわいます。
- 信濃川、中ノ口川、西川、新川、佐潟、御手洗潟といった豊かな水辺環境にも恵まれています。特に、毎年多くの白鳥が飛来するラムサール条約湿地の佐潟は、四季折々の自然が楽しめるスポットとなっています。



(3) 人口

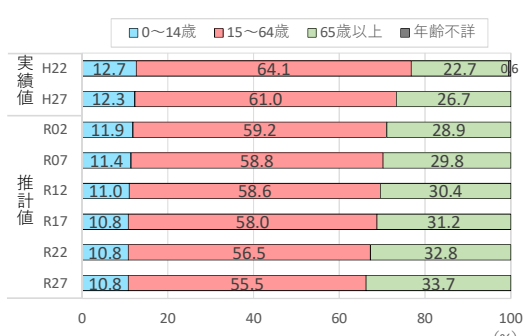
- 人口・世帯数ともに中央区に次いで 2 番目となっています。令和 27 年推計人口は約 6% 減少し、153,158 人となる見込みです。
- 年齢 3 区分別人口割合の変化について、令和 27 年推計人口の 15 歳未満は 10.8%、15 歳以上 65 歳未満は 55.5% と減少しますが、65 歳以上は 33.7% と増加する見込みです。

■ 西区の人口推移と将来推計人口



資料：国勢調査(H27)、推計値は国勢調査(H27)に基づく国立社会保障・人口問題研究所の将来推計(H30)を参考に新潟市推計

■ 西区の人口推移と将来推計人口における年齢 3 区分別人口割合の変化



資料：国勢調査(H27)、推計値は国勢調査(H27)に基づく国立社会保障・人口問題研究所の将来推計(H30)を参考に新潟市推計

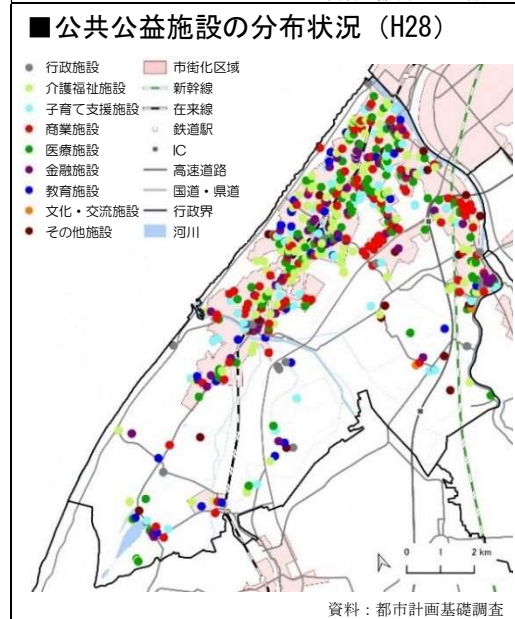
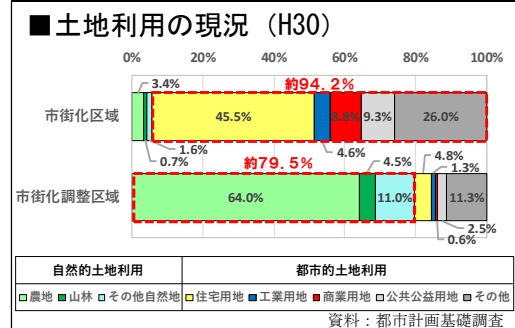
(修正素案)

令和2年11月27日

② 現状と課題

(1) 土地利用

- 市街化区域は、主に JR 越後線沿線や国道 8 号沿線に連なっています。市街化区域は、約 9 割が都市的土地利用であり、行政施設や介護福祉施設などの公共公益施設が集積しています。一方で、大学南地区と坂井地区には、市街化区域に囲まれた市街化調整区域が存在しています。
- 市街化調整区域は、自然的土地利用が約 8 割であり、そのうち農地が 6 割以上を占めています。
- 今後の人口減少や少子高齢化を踏まえ、暮らしやすい地域づくりの必要性が高まっています。良好な自然環境資産は保全しつつも拠点性を高め、魅力的な活力あるまちづくりを進める必要があります。



(2) 産業

- 流通センター及び周辺地域は、新潟西バイパス（国道 116 号）整備や土地区画整理事業等とともに流通業をはじめとする商工業が発展してきました。令和 2 年に市街化区域へ編入された小新流通東地区及びの場流通南地区を含め、適正な規制・誘導を行いながら、産業を活かしたまちづくりを進める必要があります。

(3) 交通

- 区の東側には、南北方向に北陸自動車道が通り、新潟西 IC や黒埼スマート IC があります。また、東西方向には国道 116 号、西大通りなどの幹線道路が坂井輪地区、西地区を横断し、南北方向には国道 8 号が黒埼地区を縦断していますが、その他の地域においては、南北方向の幹線道路が少ない状況にあります。道路網の機能強化に向け、新潟中央環状道路や主要な都市計画道路などの整備を推進する必要があります。
- 鉄道は、JR 越後線が運行されています。中央区から坂井輪地区、西地区を横断し、区内には 7 つの駅があります。日中の運行本数は、内野駅以東では 20 分に 1 本程度ですが、内野駅以西では 1 時間に 1 本程度と少なくなります。また、路線バスは、主に東西方向の幹線道路を中心に運行されています。路線バスが運行していない地域の移動は、主に区バスや住民バスが担っています。公共交通の利便性向上に向け、駅やバス停などの環境改善や接続改善などを推進する必要があります。

(4) 防災

- 砂丘地帯の後背部から内陸部にかけて低平地が広がっています。西区の地勢により、集中豪雨による浸水被害がこれまで発生している状況を踏まえ、さらなる浸水対策を進める必要があります。

③ 区づくりの方向性

＜区の将来像＞ ー区ビジョン基本方針よりー
都市と農村が融合する、うるおいの住環境と優れた学術環境に育まれるまち

(1) 拠点性の向上

- ・坂井輪地区中心部を地域拠点に、JR越後線各駅の周辺地域一帯と黒埼地区の国道8号の周辺地域一帯を生活拠点として機能の充実を図りつつ、区の持続的な発展に寄与する都市機能のあり方について検討していきます。

(2) 都市と農村が共存するまちづくり

- ・貴重な自然地である南西部の広大な農地は保全を基本としながら、農村部での雇用機会と人口の維持を図り、都市と農村が共存するまちづくりを進めます。
- ・本市の豊かな自然環境を象徴する佐潟などの水辺環境と生態を維持・保全し、潤いと安らぎの空間の創出に努めます。また、海岸沿いの保安林未整備地域の整備を促進していきます。

(3) 産業を活かしたまちづくり

- ・新潟西バイパスや北陸自動車道に隣接する流通センターを中心とした地域の産業集積を活かし、多くの人やモノが行き交い居住する活力あるまちづくりを進めます。

(4) 交通ネットワークの強化

- ・新潟中央環状道路、外郭環状道路及び区中心部の骨格となる都市計画道路の整備を進めるとともに国道116号新潟西道路の整備促進に取り組み、道路網の機能強化を図ります。また、JRやバス事業者などと連携し、公共交通の利便性の向上を図ります。

(5) 水防対策

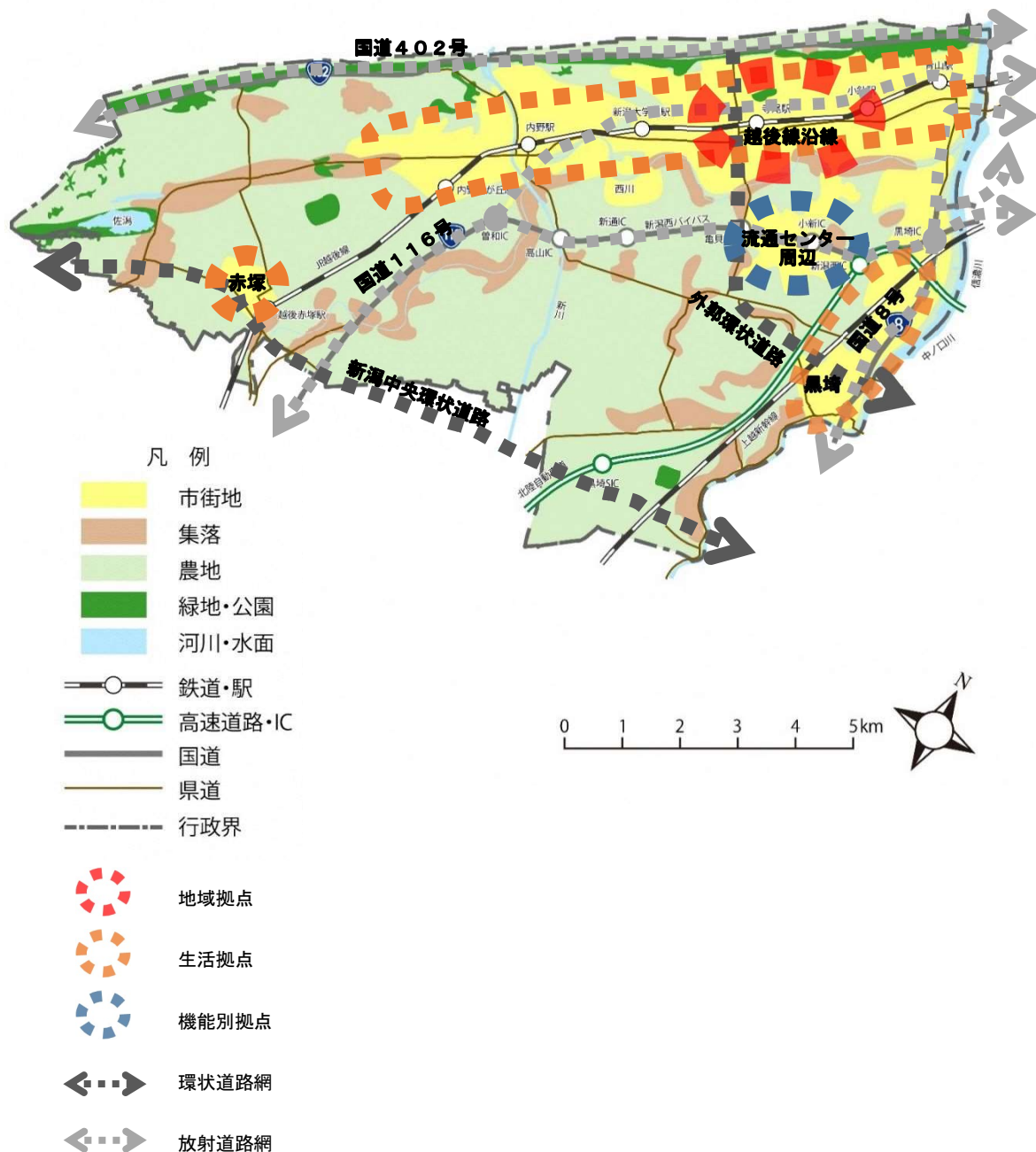
- ・区民の安心で安全な暮らしを確保するため、農地の多面的機能の維持向上に努めるとともに、浸水対策施設の整備による雨水の排出能力の強化や地下浸透等により雨水流出の抑制を推進します。

(参考) 用語の意味 (H20 新潟市都市計画マスタープランより引用)

地域拠点：都心周辺部を除く区域で、区役所及び旧市町の中心区域

生活拠点：旧町村役場及び地区事務所周辺など地域レベルでの日常生活の中心区域

<区づくりの構想図>



※現在、国土交通省では近年の激甚化、頻発する水災害を受け、「水災害対策とまちづくりに関するガイドライン」を作成することになりました。本区別構想の更新案は、R3年1月末までに都市計画課へ提出することになりますが、その後、水災害リスクの分析・評価結果等により、内容が変更となる可能性がありますことを、予めご理解・ご了承くださいませようお願いいたします。

今後のスケジュール（案）

資料9-5

令和2年11月27日

		令和2年		
		10月	11月	12月
自治協議会	本会	<p>③ 10月30日 【報告】 ・更新素案の説明</p>	<p>⑤ 本日 【報告】 ・更新素案（修正）の説明</p>	<p>⑦ 12月24日 【報告】 ・更新案（修正2）の説明</p>
	第1部会	<p>① 10月6日 【意見徴収】 ・更新素案の説明 ・意見交換</p>	<p>④ 11月6日 【意見聴取】 ・更新素案（修正）の説明 ・意見交換</p>	
	西区議員団	<p>② 10月15日 他 【意見聴取】 ・更新素案の説明 ・意見交換</p>		<p>⑥ 12月頃 【報告】 ・更新案（修正2） の説明</p>

7 西区

① 区の概要

(1) 地勢

- ・西区は、信濃川及び関屋分水路以西に位置し、坂井輪地区、西地区、黒埼地区で構成されています。北には日本海があり、川や潟などの水辺も多く存在しています。
- ・北西部には海岸砂丘地帯があり、南東部は平野となっています。平野部は海拔が低く、水との関わりを繰り返してきました。この歴史の中で築いた豊かな穀倉地帯が、美しい風景を作り出しています。
- ・区の面積は、94.09km²で市内全8区の中では5番目、新潟市の全面積(726.46km²)の約13%を占めています。(面積：国土交通省国土地理院(R2))



(2) 自然

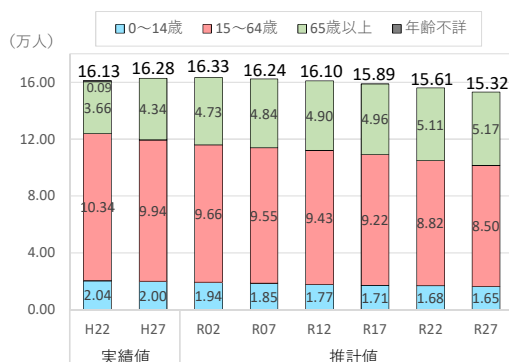
- ・日本海に面して長い海岸線を持ち、青山海岸から四ツ郷屋浜まで延びる砂浜から見える夕日は、西区のシンボルとなっています。毎年この地で日本海夕日コンサートが開かれるなど、多くの人々が夕日に集い、にぎわいます。
- ・信濃川、中ノ口川、西川、新川、佐潟、御手洗潟といった豊かな水辺環境にも恵まれています。特に、毎年多くの白鳥が飛来するラムサール条約湿地の佐潟は、四季折々の自然が楽しめるスポットとなっています。



(3) 人口

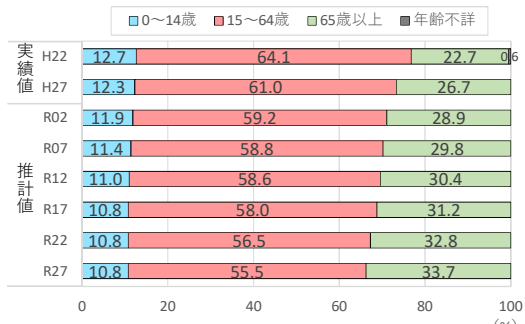
- ・人口・世帯数ともに中央区に次いで2番目となっています。令和27年推計人口は約6%減少し、153,158人となる見込みです。
- ・年齢3区分別人口割合の変化について、令和27年推計人口の15歳未満は10.8%、15歳以上65歳未満は55.5%と減少しますが、65歳以上は33.7%と増加する見込みです。

■西区の人口推移と将来推計人口



資料：国勢調査(H27)、推計値は国勢調査(H27)に基づく国立社会保障・人口問題研究所の将来推計(H30)を参考に新潟市推計

■西区の人口推移と将来推計人口における年齢3区分別人口割合の変化



資料：国勢調査(H27)、推計値は国勢調査(H27)に基づく国立社会保障・人口問題研究所の将来推計(H30)を参考に新潟市推計

② 現状と課題

(1) 土地利用

- 市街化区域は、主に JR 越後線沿線や国道 8 号沿線に連なっています。市街化区域内には行政施設や介護福祉施設などの公共公益施設が集積しています。
- 市街化区域の約 9 割は都市的土地利用がされています。特に住宅用地は 4 割以上を占めています。また、市街化調整区域では 6 割以上が農地として利用されています。
- 大学南地区と坂井地区には、逆線引き地区が存在しています。

(2) 交通

- 区内の東側には、南北方向に北陸自動車道が通り、新潟西 IC や黒埼スマート IC があります。
- 坂井輪地区、西地区には国道 116 号、西大通りなどの幹線道路が東西方向に横断しています。また、黒埼地区においては国道 8 号が南北方向に通っていますが、その他の地域においては、南北方向の幹線道路が少ない状況にあります。

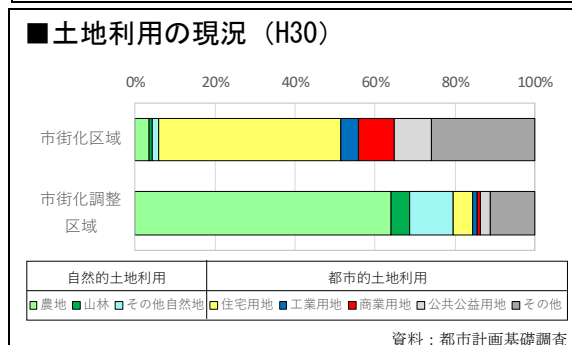
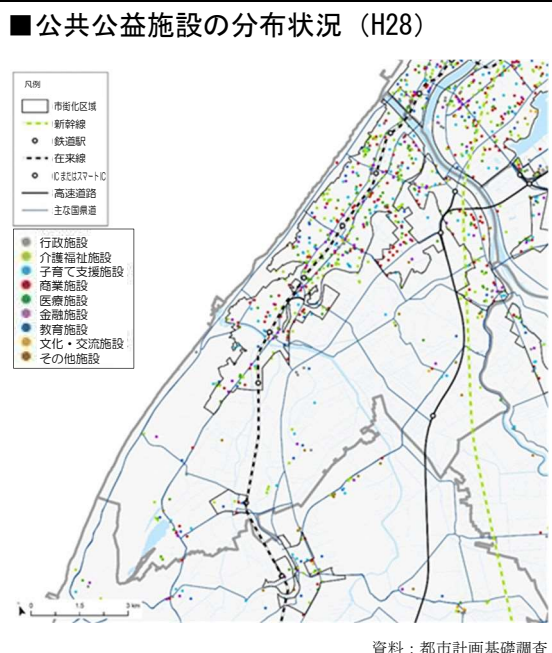
- 鉄道は、JR 越後線が運行されています。中央区から坂井輪地区、西地区を横断し、区内には 7 つの駅があります。日中の運行本数は、内野駅以东では 20 分に 1 本程度ですが、内野駅以西では 1 時間に 1 本程度と少なくなります。
- 路線バスは、主に東西方向の幹線道路を中心に運行されています。路線バスが運行していない地域の移動は、主に区バスや住民バスが担っています。

(3) 産業

- 流通センター周辺地域は、新潟西バイパス（国道 116 号）整備や土地区画整理事業とともに流通業をはじめ商工業が発展してきました。令和 2 年には、新たに小新流通東地区及び的場流通南地区が市街化区域へ編入されました。

(4) 防災

- 砂丘地帯の後背部から内陸部にかけて低平地が広がっています。西区の地勢により、集中豪雨による浸水被害が多く発生しています。



③ 区づくりの方向性

赤字箇所：追加、修正

<区の将来像>

都市と農村が融合する、うるおいの住環境と優れた学術環境に育まれるまち

(1) 拠点性の向上

- ・坂井輪地区中心部を地域拠点に、JR越後線沿線と黒埼地区の国道8号の周辺地域一帯を生活拠点に、越後赤塚駅周辺を近隣拠点として機能の充実を図るとともに、まちなかの有効利用を促進します。

(2) 産業を活かしたまちづくり

- ・新潟西バイパスに隣接する流通センターを中心とした地域を産業拠点として、多くの人やモノが行き交う活力あるまちづくりを進めます。

(3) 交通ネットワークの強化

- ・新潟中央環状道路、外郭環状道路及び区中心部の骨格となる都市計画道路の整備を進めるとともに国道116号新潟西道路の整備促進に取り組み、道路網の機能強化を図ります。また、JRやバス事業者などと連携し、公共交通の利便性の向上を図ります。

(4) 自然環境の保全

- ・貴重な自然地である南西部の広大な農地を保全するとともに、本市の豊かな自然環境を象徴する佐潟などの水辺環境と生態を維持・保全し、潤いと安らぎの空間の創出に努めます。また、海岸沿いの保安林未整備地域の整備促進に取り組みます。

(5) 水防対策

- ・区民の安心で安全な暮らしを確保するため、浸水対策施設の整備による雨水の排出能力の強化や地下浸透等による雨水流出の抑制に努めます。

<区づくりの構想図>

